

2025年3月期第1四半期決算
投資家向け説明会質疑応答録

日時:2024年8月7日(水)

登壇者:取締役 専務執行役員、CFO 兼 CISO、財務統括 兼 管理統括 後藤 芳光
常務執行役員、経理統括 君和田 和子

CFO, SB Investment Advisers & SB Global Advisers, Navneet Govil
Arm, Vice President, Investor Relations, Ian Thornton

質疑応答

質問者 1

Q1:

自己株式取得について質問します。以前の説明では、自己株式取得による株価上昇は一時的なところもあるので、NAV の上昇が非常に重要だというお話がありました。このタイミングで自己株取得をしたのは、やはり有事だからという理解でよいでしょうか。他方、有事の中でもきちんと投資できるような投資のパイプラインは潤沢にあり、投資のスピードは落ちない、投資と自己株取得の両立ができるという理解でよいでしょうか。この自己株式取得の背景と投資のパイプラインについて教えてください。

A1:

(後藤) 意思決定に至る論点というのはいくつもありますが、もちろん NAV ディスカウントがかなりワイドになってきたことは一つの材料だと思います。また、平時か有事かという、今は絶対的に有事だという状況ではありませんが、史上最大の下げと史上最大の上げのようなことが 2 日間で起きてしまう状況ですから、やはりマーケットについては慎重に見ていく必要があるでしょう。そうした時に、会社として一定のメッセージを出すべきだろうという議論に至っています。このタイミングは同時に、投資の好機でもありますが、その一方で有事の時に、一番優先しなければいけないのは財務の安全性かもしれません。そちらの方に十分な余力を残しつつ、取締役会で最終的に合意した金額が 5,000 億円だったということです。

Q2:

グラフィコアについてです。グラフィコアは今後パートナーシップと言いますか、御社グループで活用されると思うのですが、アームから見た時にどのような提携シナジーやオポチュニティがあると理解すればよいでしょうか。

A2:

(Thornton) SBG がグラフコアを買収したのは 1 カ月前のことなので、提携する上での機会について話すには少し早いです。今後提携が進むにつれ、コメントできればと思います。

質問者 2

Q1:

後藤さんをお願いします。まず自己株式取得についてです。株価は下がっていますが、自分たちの中期的な事業成長性に自信があるので今回自己株式取得を発表したのだという、伝統的な捉え方をしているのでしょうか。一方で株価は今 7,000 円台ですが、1 年前も 7,000 円台でした。今回と 1 年前を比較した際に、もちろん NAV ディスカウントのワイド化というのがありますが、戦略面、財務面、それからキャッシュポジションなども含めて何がきっかけで今回の発表に至ったのか、もう少し詳しく教えてください。

A1:

(後藤) 取締役会において自己株式取得を意思決定するためのテーマはいくつもあります。現在株価が急落する中で NAV ディスカウントがワイドになってきていること、株価の水準そのもの、そしてこの数日間で史上最大の下げと上げという動きがあるなど、マーケットの今後について非常に、慎重に注視していく必要がある環境であること。有事とまではいかないにしても、有事に至るリスクもあるとするならば、その前に早めにメッセージを出したい。ただ、その時に従前から申し上げているとおり、我々としては常に新規投資と自己株式取得を含めた株主還元、それから財務改善の最適なバランスを見ていきます。我々にとって、例えば株主とクレジット投資家のどちらかしかいらっやらないのであれば片方だけに配慮すればいいわけですが、やはり相反する考え方を持っているステークホルダーがお互い納得、合意できるレベルというのを会社として追求していかなければなりません。そのバランスを慎重に考えた結果です。

Q2:

財務編の 7 ページについてです。先ほど平時と有事というお話をいただきました。今はおそらく戦略重視に足を入れながらギアを少しニュートラルに戻しつつある状況、慎重に見定めている状況なのかと推察していますが、例えば有事の際は何がシグナルになって後藤さんのギアが変わるのでしょうか。先ほどご説明いただいたように株価や様々な状況があるかと思いますが、1 番重視されている点を改めてお聞かせください。

A2:

(後藤) これは一言では申し上げられないので、いくつかの現象を分析していく必要があると思います。様々な現象が起きている時、それが市場の潮目を変えるような材料になり得るのかどうかを考えていくべきだと思います。それは私が一人で考える話ではなく、当然取締役会で

議論していくテーマですし、取締役会にかけの手前でも社長の孫(孫 正義 代表取締役会長兼社長執行役員)を含めてディスカッションを重ねながら、状況の判断をしていきます。資料にはわかりやすく「平時」と「有事」と書いていますが、どちらかに二分するものではなく、平事から有事に移行する、もしくは有事から平事に移行するその過程というのが、実は一番大事なのかもしれません。そうした時にどのようなアクションを取るかが、我々のようなビジネスモデルの会社にとって非常に重要な議論テーマであると考えます。

質問者 3

Q1:

Navneetに質問です。米国では利下げが期待されているようです。そうなれば、SVFの投資先のIPOによる資金化のスピードアップにつながるとお考えですか？

A1:

(Navneet) 私たちは、2024年末から2025年にかけてのIPO市場の再開を慎重かつ前向きなスタンスで期待しています。実際、NASDAQのCEOであるアディナ・フリードマンは最近、IPO市場が低迷しているのは資本コストの上昇が将来の収益に影響しているからだと言っています。もしコストが下がれば、今後IPOが増えるきっかけになるかもしれません。とはいえ、本当に重要なのは、成長と収益性のバランスが取れた質の高い企業であることです。過去12ヶ月間に起こったIPOのいくつか、特にアームやその他多くのIPOを見ればわかるように、技術スタックの質、ユニットエコノミクス、そして実行力を保有することが本当に重要なのです。

Q2:

ますます期待値は高まっているということですか？

A2:

(Navneet) はいそうです。

質問者 4

Q1:

アームについてIanさんをお願いします。今回の決算で発表されたガイダンスでは、ロイヤリティ売上は最終顧客の産業需要の循環調整で若干伸び率を下げられていますが、一方でライセンス売上は想定よりも強いということで上方修正されています。長い目で見ると、これだけライセンスが強いのであれば、2、3年後にはロイヤリティの売上が増えることはすでに確定しているわけなので、会社としては3か月前よりもっとアウトルックは良くなっているということなのでしょうか。

A1:

(Thornton) はい、おっしゃる通り、顧客が最新技術のライセンスを取得し、チップの設計を開始し、生産にこぎつけ、アームにロイヤルティ収入が発生するまでには、2～3年のタイムラグがあります。ライセンス収入が当初の想定よりも増えた理由は2つあります。

1つ目は、当社の技術をより多くのチップに搭載したいと考える企業にライセンスを付与しているためです。その結果、2～3年後には、当初はアームの技術を使用しないと考えられていたチップも、アームの技術をベースにするようになり、その分のロイヤルティも支払われることが予想されます。

2つ目の理由はより重要です。現在、新しいチップの設計を始めている企業は、そのチップにAIを組み込む必要があることを認識しています。3年後には、そのチップは何らかの形でAIアルゴリズムを実行する必要があります。しかし、AIモデルは急速に変化しているため、2～3年後にそのチップに求められる性能を予測することは非常に困難です。そのため、各社はより多くのAI機能を備えた、より高度で高性能なアームプロセッサをライセンス供与しています。より先進的で高性能なプロセッサは、ライセンス料が高く、現在のライセンス収入に恩恵をもたらすだけでなく、2～3年後に市場に投入されたときのロイヤルティ料率も高くなります。しかし、2～3年後のロイヤルティ収入が具体的に何ドルになるかは誰にも分かりません。なぜなら、将来の市場規模や、その市場での成功者を完璧に予測することは不可能だからです。したがって、完璧な相関関係にあるわけではありませんが、今日のライセンス供与が増えれば、将来のロイヤルティ収入も増えると考えられます。いずれにしても、現在の状況は非常に心強いものです。

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下「SBG」と併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設定又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やLINEヤフー株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社(以下併せて「SBファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SBファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P.(文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」)、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P.(文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」)及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBIA Latin America Fund LLC(文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SBファンド(ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いら

れる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。